

III. 2017年全病院指標測定分析の特徴

はじめに

2017年度は第1回の民医連QI推進士セミナーが開催されました。QI指標をいかに個々の病院で活用していくかという問題意識で全体のプログラムが組まれていました。QI指標の意味について考え実際に指標をつくる演習をしたり、データ分析の演習を行い、プレゼンテーションの講義も受けて、最後は簡単なプレゼンテーションまで経験するという密度の濃い内容でした。

沢山のグラフを見ると全体の中で自院がどの位置にあるか気になりますが、指標を活用する上ではベンチマークは二次的な意義しかありません。まず自院の時系列変化を把握することが重要です。その変化の背景を洞察する過程で他院との比較に意義があると思われます。比較する場合もなるべく自院と条件が近い病院を選ぶなど工夫が必要でしょう。全日本民医連のホームページにある「医療指標の入力・集約・公開システム」から過去から現在まで他の病院のデータもダウンロードできますので、活用してみてはいかがでしょうか。

指標ごとの回答病院数と2016年採用の指標について

全病院指標の65の結果の回答病院数を単純に数えると最も多いのが「指標27 退院後2週間以内のサマリー記載割合」「指標59 カルテ開示数A手続きによる開示数」の81病院、最も少ないので「指標61 職員満足度C親しい人に利用を推める」の15病院、中央値65、25%値50、75%値74となります。

2016年に新たに採用された指標は「指標4 高齢者の内服定期薬剤7剤以上の割合」「指標5 入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合」「指標6 65歳以上低栄養の改善率」「指標9 病棟における薬剤関連事故象発生率」「指標10 病棟におけるポンプの設定ミス、不具合発生率」「指標16 尿道留置カテーテル使用率」「指標17 尿路感染症の新規発生率」「指標61 職員満足度」の8指標です。中央値65よりも高い指標は、「指標9 病棟における薬剤関連事故象発生率」「指標10 病棟におけるポンプの設定ミス、不具合発生率」です。それ以外はいずれも回答病院数が少ない傾向にあります。回答していくても12ヶ月連続してデータ提出できていない病院が目立ちます。

個々の考察でも回答病院数に触っていますが、この2年間でデータ提出率は総じて改善しつつあると考えたいところです。しかしデータ収集に困難を抱えている病院が相当数あることもうかがえます。新しい指標は、安定してデータを収集できるまでに期間を要するかもしれません。

個々の病院で改善傾向にあるのか、悪化傾向にあるのかの判断をするためにはせめて3年程度のデータが必要でしょう。まだ2年分のデータしかありませんが、今後さらに精度を上げながらデータを集められるように各病院で取り組みが進むことを期待します。

指標25 職業歴の初診時医師記録への記載割合

この指標は、生活と労働から疾病をとらえる医療活動の実践の一つの指標として設定されています。民医連として外せない指標とも言えます。しかし考察でも指摘されているように、この回答率は低迷しています。今年度の回答病院数は42でグラフでも順位は下位です。2013年から5年間で1回でも回答したことがあるのは59病院、うち連続回答している病院は34病院です。

入院当日の医師記録を読み内容から判断しなければいけないという点が難しいのかもしれません。担当者のマンパワーの問題なのかもしれません、提出できている病院の取り組みを参考にしながら工夫していきましょう。

公表されているデータの積極的な活用へ

データを提出するのはあとで活用するためでもあります。指標活用例の共有やその方法の教育などがこれからも大きなテーマになると思われます。データを掘り下げて検討するというのは時間もかかりますし簡単でもありません。その方法も試行錯誤の上で身につくものなのかもしれません。

各指標のグラフの左肩には単位が記載されています。その多くは%や%だったりします。あるいは日／人といった単位だったりします。同じ20%でも5人中1人と、100人中20人では印象が違います。私たち統計の専門家でない者にとってこの印象の違いを説明するのはちょっとハードルが高い気がします。しかし統計の理屈以前に、分母が5人の病院と100人の病院があるとしたら、その違いは何だろうという疑問も出てきます。このように分母と分子そのものにも関心を持つと医療活動や病床規模とそれとの関係など考える手がかりが増えます。あるいは分母をX軸、分子をY軸にとってエクセルで散布図を作成していくことで気づきを得ることもあります。報告書にあるグラフだけではなく、表に示されている数値も自分なりに可視化するさらに豊かな情報を得ることができるのではと思います。

冒頭にも述べましたが、多くの病院で苦心しながら収集したデータが民医連のホームページに集められています。各病院の担当者に依頼すれば毎月のデータをダウンロードできるはずです。この文章でもダウンロードしながら書きました。それぞれの現場でこれらのデータを活用して医療の質改善に生かして頂くことを期待します。